国語

平成26年度　一般入試（前期日程）

一　次の各問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。

問一　「選挙は二人の候補によるケッセン投票になった。」の「ケッセン」に当てる最も適当な漢字はどれか。

① 決戦
② 結戦
③ 決選
④ 結選

問二　「長年の課題がキュウテンチョッカ解決した。」の「キュウテンチョッカ」に当てる最も適当な漢字はどれか。

① 救転直下
② 急転直下
③ 珠転直下
④ 休転直下

問三　「彼の母親の小さい頃からの夢が成就した。」の「成就」の読み方はどれか。

① せいしゅう
② せいじゅ
③ じょうしゅう
④ じょうじゅ

問四　「帰省／帰郷」と同じ関係になる最も適当な組み合せはどれか。

① 母堂／母親
② 干渉／放任
③ 日常／平素
④ 転勤／左遷

問五　「地震」と同じ構造（成り立ち）をもつ熟語はどれか。

①　登山
②　停止
③　左右
④　国営

問六　「伝統の式にのっとり、祭礼は（　　）と進められた。」というとき、（　　）に最も適当な言葉はどれか。

①　粛々
②　鬱々
③　滔々
④　淡々

問七　「特色に応じた予算配分に、めりはりをキかせる。」のカタカナを漢字に直すとき、同じ漢字を含むものはどれか。

①　リヨウ者が減った
②　コウカが出てきた
③　シンブンを読んだ
④　キショウ時間が遅い

問八　「よい知らせに愁眉を（　　）」の（　　）に最も適当な言葉はどれか。

①　開く
②　発する
③　崩す
④　寄せる

問九　「内容がはっきりせずあやふやなこと」という意味の四字熟語はどれか。

① 五里霧中
② 曖昧模糊
③ 千差万別
④ 本末転倒

問一〇　「針小棒大」の意味として最も適当なものはどれか。

① 難しい
② はかない
③ 大げさ
④ 嬉しい

問一一　「試行錯誤」の用い方として最も適当なものはどれか。

① 彼は試行錯誤を覚悟して、自分の弁明に追われた。
② 彼のとっさの判断は、明らかに試行錯誤であった。
③ 彼の試行錯誤が成功していたら、何も生まれなかった。
④ 彼は試行錯誤を重ねて、ついに大きな発見をした。

問一二　次の文のうち正しい表現のものはどれか。

① 必死に抗議したが、とりつく暇もなかった。
② 新製品は、その日完売するほど好評を博した。
③ いくら気を付けていても、そこまでは目が回らない。
④ 私では役不足ですが、精一杯がんばります。

問一三　「悲しんでいる級友を慰（　　）。」というとき、送り仮名の正しいものはどれか。

① る
② める
③ さめる
④ ぐさめる

問一四　「景気は上向いているとの見方が広がっているものの、日々の生活に追われている国民においては、それを（　　）」というとき、（　　）に最も適当なものはどれか。

① 国民が日常生活の中で実感することは困難である。
② 日常生活の中で実感させてもらいたいものだ。
③ 日常生活の中で実感するまでには至っていないようだ。
④ 徐々に日常生活の中で実感してきつつあるようだ。

問一五　「連休に福岡へ行くのですが、ついでに、佐賀の友人にも（　　）と思っています。」というとき、（　　）に最も適当なものはどれか。

① 会ってこれば
② 会ってこれれば
③ 会ってこられば
④ 会ってこられれば

問一六　生徒が校長先生に、「先生が九州のご出身だということは（　　）」というとき、（　　）に最も適当なものはどれか。

① 聞いております。
② おっしゃっています。
③ 存じ上げております。
④ ご存じでいらっしゃいます。

問一七　商品の仕様を説明するときに、「この携帯電話は国内向けになっておりますので、海外では（　　）」というとき（　　）に最も適当なものはどれか。

① ご利用できません。
② ご利用になれません。
③ ご利用していただけません。
④ ご利用されません。

問一八　役所の窓口で、係員が市民に応対するとき、「何かご本人であることを証明できるものを（　　）」というとき、（　　）に最も適当なものはどれか。

① お持ちですか。
② 持っていますか。
③ お持ちしていますか。
④ 持っておりますか。

問一九　四字熟語「（　）網打尽」「（　）心不乱」の（　）に共通する数字はどれか。

① 一
② 二
③ 百
④ 千

問二〇　「雨後の筍（たけのこ）（竹の子）」の意味として最も適当なものはどれか。

① 元気がなくなる
② 有名になる
③ 次々に現れる
④ おいしくなる

問二二　「みじんも」の使い方として最も適当なものはどれか。

① すごいスピードの外車が、あっというまにみじんも走り去った。
② 彼の熱心な営業活動で、契約がみじんも取れはじめた。
③ 幼少期に鹿児島で過ごした日々を、みじんも懐かしく思い出す。
④ 仕事で忙しい日の連続であるが、つらいなどとはみじんも思っていない。

問二三　「論語読みの論語知らず」の意味と最も関係の深いものはどれか。

① 彼は「枕草子」の内容は理解しているが、「徒然草」は読んだことがない。
② 彼は口では道徳心の大切さを言いながら、実生活は実にだらしない。
③ 彼は大変な読書家であるが、どうも読む本が哲学書に偏っている。
④ 彼は同じ本を何回も繰り返し読むが、内容が全く理解できない。

問二三　「パフォーマンス」の意味として適当なものはどれか。

① 自然
② 利潤
① 危険
④ 演技

問二四　「ビジョン」の意味として適当なものはどれか。

① 効果
② 環境
③ 展望
④ 掲示

問二五　「グローバリゼーション」の意味として最も適当なものはどれか。

① 世界化
② 国産化
③ 消費化
④ 実質化

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。

翻訳とは何か。字義どおりにいえば、一つの国語から他の国語への内容の移しかえである。その場合、移しかえられるものが、詩であるか、小説であるか、戯曲であるか、ないしは論文であるかによって、また、それがいかなる国語から、いかなる国語への翻訳であるかによって、その移しかえかたにさまざまの制約や変化が生じるはずである。それゆえ厳密にいえば、それらの個々の場合に応じて、それぞれ別個の翻訳論が書かれねばならない。従って以下に述べられることは、A最大公約数的な翻訳論、というよりはむしろ、フランス文学の翻訳に従事している凡庸な一人の翻訳家の覚書にすぎないことをあらかじめ諒とされたい。

さて再び翻訳とは何かという問題に帰るのであるが、翻訳というのはいうまでもなく原作なくしては存在しえない。従って翻訳者はまず、或る原作の読者として出発しなければならぬ。即ち、ヴァレリーの用語をかりれば、彼は作品の「生産者」であるよりは、先ず「消費者」なのである。かくいえば、翻訳者はつねに原作者と従属関係に立つ如く考えられるかも知れないが、私の考えはそうではない。私は、翻訳者はまず読者である。いいかえれば、原作者の手を離れた一個の独立した作品を、B彼の理解と解釈をとおして、新たに彼自身の立場において、その作品の価値を再創造する者であると考えることによって、C翻訳者の自立性を認めたいのである。なぜなら、ヴァレリーのいうごとく、作品の生産者と消費者は本質的に分離された二つの組織であり、作品は生産者にとっては終末であり、D消費者にとっては、望みうるかぎり相互に無関係たりうるさまざまの発展の起源だからである。従ってわれわれは、作品とその作品の生産者との関係、もしくは作品が一旦出来上った場合、その作品と、その作品に様相化される人間との関係しか考察することができない。E第一のものの働きと、第二のものの反応とは決して混同されることができない。両者が各自作品について抱いているところの観念には、相互に相容れないものがあるので

ある。即ち、原作者が或る作品を生産する場合の創作行動と、翻訳者がその作品を翻訳する場合の創作行動とは全然別個のものなのである。

このことは少しく考えれば極めて明瞭なことがらであるにもかかわらず、世のなかには、F翻訳者は原作者の埒外に一歩も出ることができないように考えている人々や、翻訳者は出来うるかぎり原作者と同一の創作行動をおこなわなければならないと考えている人は決して少くはないのである。翻訳不可能論や、翻訳は自己自身の思想をもたざる人間の仕事であるとする説や、或る翻訳の忠実さ如何を巡ってなされるさまざまの枝葉末節的な議論などは、いずれもそのような人々によっておこなわれるのである。

一つの原作に対してA、B、Cなる三つの翻訳がある場合、その何れが原作に最も忠実であるかを決定する基準は存在しないのである。たとえ原作者がそれらの翻訳を読んで、Aなる翻訳が自己の作品にもっとも忠実であると確言しても、人はその言葉を無条件に信用するわけにはゆかない。なぜなら、原作そのものが既に、原作者が表現せんとしたところのものをどの程度に如実に伝えているか、人は（原作者をも含めて）容易に判断することができないからである。一つの作品に対して各種の読者が存在するように、それの翻訳も多種多様であって差支えないわけである。ことにゲーテとか、シェークスピアとか、バルザックのような幅の広い作家のものは、同一の作品に対して、各時代を通じてできるだけ多くの翻訳が出ることが望ましい。私は原作よりも優れた翻訳というものを考えるわけにはゆかないけれども、原作者の意識しない箇所が、翻訳者によって新しく生かされる場合はかなり屢々（しばしば）あるのではないかと思われる。それゆえわれわれが翻訳や翻訳家について論じる場合には、原作者と原作、原作と翻訳者、翻訳とその読者との関係を、それぞれ別個の独立した項として考察しなければならないであろう。

右に述べたごとく、私は、作品の「消費者」としての翻訳家の自立性を確信するものであるが、それと同時に人は、翻訳家が、一般の「消費者」即ちG単なる読者の決して蒙（こうむ）りはしない制約を、原作者より強制される事実をも率直に承認しなければならない。われわれが或る作品の翻訳を志す直接の動機は、その作品がわれわれの内部に生じた或る価値を、再びこんどはわれわれの手によって生産しようとする願望にほかならぬが、それと同時にわれわれは、原作のなかに含まれたわれわれを直接には触発しなかった部分、われわれの内部に何等の価値をも生じなかった部分をも再び生産することを強制される。なぜなら原作の生産者の目的が、原作そのものを産ましめたところのものを、再びその作品によって、こんどは消費者たる読者に産ましめようとする点に係っている以上、翻訳者ができうるかぎりそれに協力しなければならないのは当然だからである。のみならず、原作者は自己の内部の限定のできないものを、とにもかくにも作品として限定したのであってみれば、その限定されたものから出発する翻訳者は、原作者が自己の作品に対してもつほどの自由は当然享有するわけにはゆかない。原作者は自己の作品につねに自由に修正を

加えることができるけれども、翻訳者には原作を自由に変更することは許されない。翻訳というものは原作者と翻訳者の合作であるとしても、出資者はどこまでも翻訳者なのである。

一方また翻訳者は、原作を自由に読みこなし得る読者、即ち原作の一般「消費者」と同様の自由をもH することが許されないのである。彼らは原作の内容を他の国語に移しかえる義務から免れているために、翻訳者よりも原作に対して遥かに自由な立場にある。彼らは原作によって限定されはしない。否、優れたる読者は、原作を軸としてできうるかぎり遠くまで飛びうる人であろう。そうしてこの読者はもちろん翻訳家自身の内部にも存在しうるのである。されば翻訳家とは、彼自身の内部にある自由なる読者と、原作によって厳重に限定された読者との間を、振子の如く往来する人であるといえよう。そうして、その振幅の広い人ほど、隷属的もしくは職業的翻訳家としてははなはだ不適当ではあるけれども、もしよき機会と偶然をえた場合には、もっとも優れた、もっとも幅の広い翻訳をなしうる人であろう。「私は一冊の本を書くに必要な時間以上を翻訳のために費している。もちろん、原著者が、私の訳した本を書くに要した以上の時間だ」「初めのころには自分の作品の翻訳が、私に従属することを求め、フランス語の原文にもっとも近く行くものが最上のように思われた。忽ち私は自分の誤謬に気がつき、現在では私の翻訳者に決して私の言葉や句に束縛されぬように、私の作品の上にいつまでも身をかがめぬようにお願いする」というジイドは、そのようにI優れた翻訳をなしうる才能に恵まれた翻訳家であるように私には思われる。

翻訳家が原作の幅をできうるかぎり広く翻訳において生かさなければならないことはいうまでもないけれども、そのことは原作によってできうるかぎり限定されることでは決してないのである。世の翻訳不可能論者は、自由なる読者であるよりは、むしろはなはだしばしば原作によって厳重に限定されることを希望する人々であるのはJ皮肉な現象といわねばならない。もちろん世のなかには原作の幅をあまりにも狭めすぎた翻訳が多数に存在する。それらは自由なる読者の眉をひそめさせるに相違ない。と同時に、もっとも優れたる読者を、時としては原作者をすら凌駕するような幅の広い翻訳もまた存在しうるのである。原作に対する己の理解力を以て最も深く広いものと考え、それを唯一の根拠とし、標準として、翻訳を批判してはならない。じっさいジイドのいうように、翻訳の仕事は、多くの場合、善悪はあるにしても、Kそれによって無能力を補填しえないような凡庸な人物に委されてはいる。しかしそれを以てただちに翻訳家を、翻訳家の仕事を軽蔑することは許されない。人はゲーテさえも翻訳の仕事を厭わなかった事実を想起すべきである。

次に原作を読むことができない読者と翻訳との関係の問題が残されている。Lこれは原作と、原作を読みうる読者との関係と全く同様である。翻訳の読者はどこまでも翻訳の読者であって、原作の読者ではない。翻訳がどれほど原作と違っていようとも、読者にはそれを判断する能力は

ない。たとえ翻訳批判者が、微細な点に亙って翻訳と原作とを比較論評しても、それは原作を読みこなしうる人々の間の問題たるにとどまって、翻訳の読者にとっては何等益するところのない、というよりも、全く無関係な世界のできごとにすぎない。なぜなら、たとえいかほど悪い翻訳であっても、一旦それが存在した以上、それは原作より独立して、原作とは別個の価値を生産し、それに対しては原作者も、さらに他のよき翻訳も如何ともすることができないからである。外国文学がしばしばもっとも間違った、即ちその本国におけるとは全く別種のやり方で、他国の文学に影響するのは、多くの場合、そのような悪しき翻訳のためであって、それの功罪を論じることは比較文学の重要な研究題目をなしている。例えばフランスの自然主義は、わが国の自然主義とは全く別個のものなのである。翻訳家の責任が如何に重大であるかは、これにても察せられるであろう。

さきに私は、一つの原作に対してA、B、Cなる翻訳が存在する場合、その何れが原作に一層近いかを決定する基準は存在しないといったけれども、それは勿論、それらの翻訳が、少くとも語義的には、原作を完全に移植しているという前提のもとに立っていることはいうまでもない。原文にある犬という単語は訳文においてもやっぱり犬であって、決して猫であってはならず、原文の文法的法則は、あくまで正確に理解し、遵守されなければならない。「語学的に不正確でも、原文をよく摑んだ翻訳ということが屢々いわれるが、私はMそんなものを信じない。私は語学的に正確に原文を読むことが出来ない人に原文の意味や気分を正しく摑むことも伝えることも出来る筈がないと思う」という本多顕彰氏の言葉に私は全く賛成するものである。「あまりにテキストに近寄りすぎるな」というジイドの忠告は、テキストをぞんざいに読めということでは決してあるまい。ただヴァレリーも言うように、「世のなかにはN創造的な誤解というものがあって」、翻訳文学が自国の文学に及ぼす影響のなかには、この種の誤解がかえって非常な力を持っていること、ならびにそのような現象はむしろ文学の面白さの一面であることも同時に私は認めたいと思うのである。たとえ正確な翻訳であっても、翻訳者や、原作者が思いもかけなかったような読まれ方をする場合が決して稀ではないのである。しかしこれは川端康成氏のいわゆる「作品と読者の結縁」であって、原作者も翻訳者も、それを尊敬しなければならないであろう。

（河盛好蔵「翻訳論」より）

問一　傍線部Ａ「最大公約数的な翻訳論、というよりはむしろ、…」と言い直したのは何故か。最も適当な説明を選べ。

① 翻訳の経験から筆者がこれまで気づいたこと考えたことを次第もなく書き留めるメモ程度の内容であることを告知するため
② 厳密な姿勢で原作の言語やジャンルで異なる翻訳論を展開するのは筆者の手に余る、と言う気持ちを表明するため
③ 言語はフランス語、分野は不特定、能力は平均的、と言う条件を提示して、この文章の評価を前以て予告するため
④ 翻訳は原作のジャンルや言語によって論も当然異なるが、ここでは翻訳全般に共通する事柄を述べることを伝えるため

問二　傍線部Ｂ「彼」とは、だれのことを指しているのか。最も適当なものを選べ。

① 生産者
② 原作者
③ 消費者
④ 翻訳者

問三　傍線部Ｃ「翻訳者の自立性」とは何か。最も適当な説明を選べ。

① 生産者たる作者の意図を慎重に汲み取り、その意図に沿って翻訳を行う自立性
② 作品を自由に理解・解釈しその作品に新しい価値を見出すことが許される自由
③ 一読者としての奔放な読解と翻訳者としての新解釈をともに追究する研究心
④ 作者の意図に束縛されず原作に未知の価値を発見する新鮮な読書を促す自主性

問四　傍線部D「消費者にとっては、望みうるかぎり相互に無関係たりうるさまざまの発展の起源」とあるが、ここでいう「相互に」とは何と何とについて言われているのか。最も適当なものを選べ。

① 作品の生産者としての作家と作品の消費者としての読者
② 翻訳の対象となる原作と翻訳された作品
③ 作品とその作品に様相化される人間
④ ある読者の読後感とまた別の読者の読後感

問五　傍線部E「第一のものの働きと、第二のものの反応」とあるが、ここでいう「第一のもの」・「第二のもの」とはなにか。最も適当なものを選べ。

① 原作者・読者
② 翻訳者・読者
③ 消費者・翻訳者
④ 生産者・原作者

問六　傍線部F「翻訳者は原作者の埒外に一歩も出ることができない」とはどういう意味か。最も適当な説明を選べ。

① 原作者の考えを忠実に理解し尽くすために、翻訳者に要求されるものは何よりもすぐれた語学力であって、それなくしては文字に現われた原作者の意図も正確かつ精密に理解することは不可能である
② 翻訳者はすぐれた読者であるべきであって、原作者自身も気づかぬ原作の価値を創造的に読み出さなければならず、原作の文言の裏に隠された意図をも掘り起こして翻訳文の上に現わすべきである
③ 翻訳者は原作者の創作意図を理解しそれに忠実に従うべきであって、原作者の創作意図を離れて原作の文言を解釈したり、また文言を原作に付加したり削除したりして翻訳文を作るべきではない
④ 翻訳者は原作者の考えをなぞるように追い、一語も読み落とさぬすぐれた読者であるべきであって、その能力に欠ける翻訳者は往々にして原作者の意図を無視あるいは曲解して、恣意的な翻訳をしがちである

問七　傍線部G「単なる読者の決して蒙りはしない制約」とは何か。最も適当な説明を選べ。

① 自己の内部の限定できないものから出発した原作者に協力しなければならない翻訳者の自己犠牲的な卑屈さ

② 自作に自由に手を加えることが出来る原作者の自由と比べて翻訳者にそれが許されないという不公平

③ 価値を感じない原作の部分をも原作の枠をこえぬ自制的な気持ちで翻訳しなければならないという不自由さ

④ 原作者の意識を経ずに作品中に生み落とされた価値を発見し、翻訳上に生かさなければならないという義務

問八　空欄Hに入る漢字熟語は何か。最も適当なものを選べ。

① 弁護
② 検証
③ 蹂躙
④ 享有

問九　傍線部I「優れた翻訳をなしうる才能に恵まれた翻訳家」とはどういう才能を持つ翻訳家か。最も適当な説明を選べ。

① 原作の文言を正確に読みこなしうるだけの学識を有し、また自国語の知識においても欠如したところがない優れた言葉の才能に恵まれた翻訳者

② 原作の内容を正確に他の言語に移しかえることが出来る言語的読解力と原作者に通じる心情や思想などを持ち原作を自由に読みこなしうる創造的読解力に恵まれた翻訳者

③ 原作を読んでもそれに縛られぬ豊かな空想力を内に持つ人で、みだりに原作によって束縛されぬ自己肯定的な強い精神を持つ翻訳者

④ 原作の内容を大きく理解するだけの人生経験や人間理解を持ち、原作者に対する人間的共感を土台として翻訳を深めることが出来る幅広い人間的教養の持ち主

問一〇　傍線部J「皮肉な現象」とは何が「皮肉」なことだというのか。最も適当な説明を選べ。

① 翻訳の対象となる原作の読解から自由な想像を排除して原作に臨むことで翻訳対象がより明確に限定され、その分翻訳は容易になるはずなのに、それでも翻訳は不可能だと唱える翻訳不可能論者の矛盾

② 翻訳の対象となる原作の読解が無限定であるから翻訳の可能性も無限定的に拡散し、その結果原作に忠実な翻訳は不可能であると考えるのが筋の通った自然な考え方であるはずなのに、それに反論する翻訳不可能論者の矛盾

③ 語学的に正確な翻訳を最上の翻訳であると信じる人々の主張が、原作から逸脱することを厳しく制限する翻訳家の主張と重なる部分があるのは、本来起こりえないことなのに現実には起こっている現実の矛盾

④ 原作に対する翻訳家自らの理解力を過信し、自らの理解力・読解力を唯一の判定基準にして原作とその翻訳の出来不出来を判断するのは誤りであるが、翻訳家の中にはこのような人が少なからず存在するという矛盾

問一一　傍線部K「それによって無能力を補填しえないような凡庸な人物」とは、どのような人物か。最も適当な説明を選べ。

① ここでいう無能力とは、文化的理解力の欠如を指すもので、それ故、凡庸な人物とは翻訳しようとする原作の背景をなす異文化を理解する能力のない人物をいうものである

② ここでいう無能力とは、語学的能力の欠如を指すもので、それ故、凡庸な人物とは翻訳に必要な外国語の無知の代償となるような優れた翻訳も出来ない人物をいうものである

③ ここでいう無能力とは、創造的能力の欠如を指すもので、それ故、凡庸な人物とは創造的な無能力の代償となるような優れた翻訳も出来ない人物をいうものである

④ ここでいう無能力とは、読解力の欠如を指すもので、それ故、凡庸な人物とは原作の内容を十分に読みこなせないような人物をいうものである

問一二　傍線部Ｌ「これは原作と、原作を読みうる読者との関係と全く同様である」に「全く同様」とあるが、どのような点で「全く同様」と言うのか。最も適当な説明を選べ。

① 原作を読みうる読者は翻訳をも読みうるという点で全く同様であるということ
② 作品として読む対象が原作或いは翻訳であるという点で全く同様であるということ
③ 原作の翻訳であってもその作品を読むという点では全く同様であるということ
④ 原作を読む原語話者に対し翻訳言語話者である点では全く同様であるということ

問一三　傍線部Ｍ「そんなもの」とは何か。最も適当なものを選べ。

① 原文の味わいをよく再現した翻訳
② 語学的理解に難があるが優れた翻訳
③ 原作の細部までを完全に移植した翻訳
④ テキストに即かず離れずの無難な翻訳

問一四　傍線部Ｎ「創造的な誤解」とは、何か。最も適当な説明を選べ。

① 原作者の意図が原作に明示されていないので、語学的にはすぐれた翻訳者も原作の真意を計りかねて犯す翻訳上の誤解
② 翻訳者は原作を語学的には正確に理解しているが、翻訳の日本語が晦渋・詰屈で、読者に不必要な努力を強いるために生じる誤解
③ 翻訳者が原作を正しく理解できず、それ故不正確となった翻訳が原作になかった新しい価値を生み出したような誤解
④ 幅広い原作者の文学作品には語学的理解を超える深い意味があるものだが、それがかえって文学の面白さを生み出すような誤解

問一五　本来「原作」とあるべきところが、「翻訳」となっているために、意味が通じなくなっている箇所が本文中に一箇所ある。本文を「翻訳〇〇〇〇〇」と八文字抜き出して、その箇所を示せ。

三　前問の問題文は「語学的に正確に原文を読むことが出来ない人に原文の意味や気分を正しく摑むことも伝えることも出来る筈がない」という意見を引用して、翻訳には原作を語学的に正確に読むことが不可欠であると述べています。それでは、翻訳で必要となるもう一方の言語、即ち日本語についてはどうなのでしょうか。「翻訳には、外国語（たとえば、英語）に劣らぬほど、日本語の力が必要である」という立場に立って、意見を述べなさい。意見がよく分かるように必ず具体的な例を挙げなさい。文字数は全部で八〇〇字程度です。（原稿用紙に記入のこと）。

国語

平成２６年度　一般入試（後期日程）

一　次の各問いに答えなさい。答えは各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。但し、問一六と問二一とは記号ではなく、漢字熟語を記入しなさい。

問一　傍線部の漢字がほぼ同一の意味を持つ熟語の組合せはどれか。

① 赤心・赤飯・赤面・赤誠・赤銅
② 南進・南端・以南・南西・南面
③ 私意・私腹・私淑・私情・私通
④ 都会・都合・古都・遷都・首都

問二　傍線を引いた漢字熟語の用法に誤りがない文はどれか。

① 本来神経質な人間だったが、つとめて磊落に振る舞うようにしていた。
② その外国語が歪曲に話せない人間に立派な翻訳ができる道理がない。
③ 老獪な意味における精神の発展上、初老期はきわめて重要な時期である。
④ ドアが開いて、若い、大柄な、無垢な顔立ちの立派な先生が入ってきた。

問三　（　　）内に示した漢字熟語の漢字の読みが間違いでないものはどれか。

① ここ数日の好天で山では雪崩（せっぽう）が発生しやすくなっている。
② 永遠の離別を演じる熱演に母と子の強い愛惜（あいじゃく）を感じる。
③ 長い話を聞かされて、欠伸（けっしん）をかみ殺すのに苦労をした。
④ 暖地の家の軒下にこんな大きな氷柱（こおりばしら）ができるのは珍しい。

問四　「収入／支出」と同じ関係にある漢字熟語の組合せはどれか。

① 足袋／手袋
② 一入／百出
③ 団扇／扇子
④ 朔日／晦日

問五　四字熟語の漢字が全て正しい組合せはどれか。

① 破顔一生・博引傍証・縦横無尽・詩歌管絃・人面獣心
② 心頭滅却・忠君愛国・生老病死・上意下達・周章狼狽
③ 森羅万象・人跡未到・不即不離・初志完徹・純真無垢
④ 鼓腹撃壌・融通無碍・不倒不屈・不惜身命・夫唱婦随

問六　漢字熟語のひらがなで示したよみに間違いを含む組合せはどれか。

① 誦経（ずきょう）・分別（ふんべつ）・示威（じい）・放恣（ほうし）
② 数寄屋（すきや）・着荷（ちゃくに）・緻密（ちみつ）・下戸（げこ）
③ 伝播（でんぱん）・手枕（たまくら）・素人（しろうと）・下賜（かし）
④ 片言（へんげん）・頭巾（ずきん）・素朴（そぼく）・俚諺（りげん）

問七　傍線部の漢字の下にその読みを（　　）に入れてカタカナで示した。その読みが全て正しいものはどれか

① これ（「オデュッセイアー」）はほとんどまったくうちくつろいだ炉辺（ロヘン）漫談、いわゆるお伽ばなし風な趣向を随所に展開して千変（センベン）万化、古代ギリシャ吟遊（ギンユウ）詩人のまったく別様な創作活動を示すものとして、その多様さ、積極的な闊達（カッタツ）さを嘆賞され、中にはこれをイーリアスの上に置く批評家も少なくない。
② ことに「イーリアス」は必然的に数世紀前の史実に基づく武勲（ブクン）の物語を、たとえそれがどのような変貌（ヘンボウ）を遂げ、潤色（ジュンショク）を受けたにもせよ、根幹（コンカン）とするものである。
③ 口誦（クショウ）詩については、わが国にもすでにその例が少なくはない。アイヌの「ユーカラ」や琉球（リュウキュウ）の「おもろ草紙」はたしかにこの類であるし、源平盛衰（ジョウスイ）記や太平記にもこの要素が少なくない。また講談（コウダン）落語もこれに似ている。
④ もし「オデュッセイアー」の粉本（フンボン）あるいは原作とでもいうべ

きものがあったとすれば（それは必ずしも他の先行する譚詩（タンシ）ではなく、同一詩人の前作でも差し支えない）、それをさらに更改し彫琢（チョウタク）するに当たって、このような若干（ジャッカン）ごまかしの操作がおこなわれたのかも知れない。

問八　次の文章のカタカナ部分の漢字が全て正しい組合せはどれか

良きにつけ悪しきにつけかすまでは啜るな。ある㋐ケンジャは知恵の㋑キョクチを㋒チュウヨウに帰した。完全無欠の正義は即ち不正となる。レモンをあまりに強くしぼれば遂には苦味を出す。されば㋓キョウジュにおいても極端に走るな。精神ですらも刻苦勉励の度が過ぎれば㋔ドンマする。牛だとて㋕ザンコクに搾れば乳の代りに血を出すだろう。

① ㋐賢者　㋑極致　㋒中庸　㋓享受　㋔鈍麻　㋕残酷
② ㋐見者　㋑極到　㋒中傭　㋓享授　㋔鈍摩　㋕残剋
③ ㋐験者　㋑極至　㋒中要　㋓享愉　㋔鈍磨　㋕残克
④ ㋐巧者　㋑極倒　㋒中容　㋓享趣　㋔鈍痲　㋕残刻

問九　次の文章の（　　）に入れる適当な四字熟語はどれか。

故旧が踵を接して冥府へと旅立ち、（　　）の思いを禁じ得ぬ頃であった。

① 落花流水
② 寂滅為楽
③ 飛花落葉
④ 行雲流水

問一〇　傍線部の漢字の読みがすべて同じ漢字熟語の組合せはどれか。

① 納屋・納受・滞納・出納・奉納・納戸
② 破談・爆破・撃破・打破・読破・看破
③ 言質・断言・言語・伝言・失言・無言

④　行水・修行・行商・行政・興行・行幸

問一一　傍線を引いた漢字熟語の漢字に誤りがない文はどれか。

①　本を読み出すと、秀麿は不思議に精神をそこに集注することが出来て、事業の圧迫をも感ぜず、家庭の空気の緊張をも感ぜないでいる。

②　雪は若旦那様に物を言う機回が生ずる度に、胸の中で凱歌の声が起こるほど、無意味に、何の欲望もなく、秀麿を崇拝しているのである。

③　細い目のちょいと下がった目尻に、嘲笑的な微笑を湛えて、幅広く広げた口を囲むように、左右の頬に大きい括孤に似た、深い皺を寄せている。

④　秩序を無用の抑圧だとして、無制限の自由で人生の快調が成り立つと思っている人たちは、人間の欲望の力を侮っているのではあるまいか。

問一二　傍線を引いた慣用的表現が正しく使われているものはどれか。

①　駘蕩たる春の海に舟を漕ぎ出して、のんびりと釣り糸を垂れる心地は正に、エビで鯛を釣る思いだろう。

②　インフルエンザが流行することが予想されますので、病人の謦咳に接することなどのないように注意してください。

③　今も頻々として世に発生する詐欺事件や殺人事件の記事に接する度に、殺伐とした世相を憂うる感に堪えない。

④　どんなに会社のためになるといっても、あの一刻な老人が、君のような若造の提案を直ぐに聞くとは思えない。

問一三　傍線を引いた漢字熟語を適切に使っているものはどれか。

①　この著者は死屍変容の描写に変態的喜悦を感じていたのではないか。

②　この書物の晴朗な死体描写は、読む者の心に死への恐怖を吹き込む。

③　厭離穢土の教えは人間の肉身不浄の相に平安を催さしめる思想である。
④　死体の埋葬は死者の亡魂が冥府で嫌忌を得るための必要な儀式である。

問一四　次の文中の空欄に入れるべきことばの組み合せ㋐→㋑→㋒→㋓→㋔のうちで最も適当なものはどれか。

伝統に関する一番悪い考え方は、伝統というものを習慣と同じ性質のものに考えることである。伝統と習慣とは、見たところ大変よく似ているが、次の点ではまるで異なったものだ。僕らが無自覚で怠惰でいる時、［㋐］の力は最大であるが、［㋑］の力が最大となるのは、［㋒］を回復しようとする僕等の努力と自覚においてである。［㋓］はわざわざ見付け出して、信ずると言う様な必要は少しもないものだが、［㋔］は、見付け出して信じてはじめて現れるものだ。従って、そういう事に努力しない人にとっては、［㋔］という様なものは全く無いのである。習慣も伝統も断絶する事のない流れであり、両者が自ら見事に調和して、人々が伝統の回復なぞ叫ぶ必要のない健全な時代、そんな事を考えてみても安易な空想に過ぎない。伝統は、これを日に新たに救い出さなければ、ないものなのである。それは努力を要する仕事なのであり、従って危険や失敗を常に伴った。これからも常にそうだろう。少くとも、伝統を、そういうものとして考えている人が、伝統について、本当に考えている人なのである。

①　㋐習慣→㋑伝統→㋒伝統→㋓伝統→㋔伝統
②　㋐習慣→㋑習慣→㋒伝統→㋓伝統→㋔習慣
③　㋐習慣→㋑伝統→㋒伝統→㋓習慣→㋔伝統
④　㋐伝統→㋑習慣→㋒習慣→㋓習慣→㋔習慣

問一五　傍線部の語の品詞が他と異なるものはどれか。

① 好きなら好きとはっきり言えばいいのに、何と煮え切らない男だろう。
② 上品な夫人がそんなはしたない言葉をつかうものではありません。
③ 学生の指導ができないとは、教員として面目ないとは思わないのか。
④ 失意のどん底にあった私には美しい自然も味気なく思われたのです。

問一六　空欄㋐、㋑、㋒、㋓、㋔、㋕に入る最も適当な漢字熟語を［　　］内の中から選んで記せ。各漢字熟語は一度しか使わない。また、［　　］内には解答に不必要な熟語が一つ混じっている。

［文化・一義・主権・社会・想念・蔑視・財貨］

逆説的ではあるが、ナショナリズムについて㋐的な規定が成り立ちにくい所に、ナショナリズムの本質があると言える。語源的に言えば、ラテン語の〈natio〉は、ただ生まれてきた者という程度の意味にすぎなかった。それは、古代ローマ世界の中心からみて血縁によって結びついた周辺的な共同体にすぎず、多分に㋑的な存在であった。それが、キリスト教中世世界になると教会共同体の諸派を意味するようになり、有力なエリートたちを指し示すようになる。やがて絶対王政から市民革命をへて、〈natio〉はそのような㋒を共有する人民全体をあらわすようになったのである。

このように〈natio〉の意味の変遷を考えると、今日われわれが慣れ親しんでいるナショナリズムという言葉は、その担い手たちの㋓とは裏腹にきわめて新しい近代的な現象であると言える。実際、例えばE・ゲルナーなどは、ナショナリズムを、政治的単位と㋔的単位を一致させようとする政治的な運動として定義しており、ナショナリズムが、近代的な産業化にともなう㋕の流動化と平均化を背景にしていると指摘している。（岩波書店「哲学・思想事典」より）

問一七　敬語が正しく使われている文はどれか。

① 先生は、何時ごろ帰って参りますか。
② あの方もずいぶん、ご努力致されたのですね。
③ この製品については私がご説明申し上げます。
④ 私が美人だなんて、とんでもございません。

問一八　敬意表現が正しく使われている文はどれか。

① 父は今年五十になられます。
② 咳がお出になるようですが、風邪ですか。
③ ここにおられる方に、抽選でこの本をさしあげます。
④ 奥様にも良しなにお伝えください。

問一九　傍線部のカタカナ語を正しく説明している文はどれか。

① アンチテーゼとは、物価・原価・賃金・収益などの上昇、または下降につられ、他のものが連鎖的に上昇、または下降することである。
② ステークホルダーとは、消費者、従業員、債権者、株主、地域社会等々、企業などと直接間接の利害関係にあるもののことである。
③ パブリックコメントとは、不特定多数の非専門家に同一の質問を複数出して、その回答を総合して出された意見のことである。
④ ロケットスタートとは、フィギアスケートで演技開始直後に三回転ジャンプなどの高度な技術を要求される演技を行うことである。

問二〇　次のことわざのうち意味が他と異なるものはどれか。

① 井の中の蛙大海を知らず
② 針の穴から天のぞく
③ 一を聞いて十を知る
④ 葦の髄から天井のぞく

問二一　次の［　　］内の漢字を組み合わせて漢字二字の熟語を作り、文中の空欄㋐、㋑、㋒、㋓、㋔、㋕に入れなさい。ただし、［　　］内の漢字には、二度使う文字が一字ある。

［浄・蕩・清・酬・尽・放・報・高・折・夭・徳］

養生は即ち長生。［㋐］は長寿の基。人生をまたたくまに［㋑］するものは愚と［㋒］とである。すなわち、ある者は自分の存在を維持していくだけ知能を持っていない。ある者はまたそれだけの意志を持っていないから、自分でみすみす自分の存在を失ってしまう。徳がそれ自身でそれ自身の［㋓］となっているように、不身持はそれ自身の刑罰となる。心身を不品行にゆだねる者は二重の意味において［㋔］し、熱心に徳を修める者にはほとんど死がない。霊魂の無垢［㋕］は肉体にも影響し、善良な生活は、質においても長さにおいても、有形にも無形にも、心身二つながらの長命に導く。

問二二　傍線を引いた熟語の意味が他と異なるものはどれか。

① 例の新進作曲家の新作、結構いけるじゃないか。
② まずはこの程度の味なら、料理も結構な腕といっていい。
③ 難しい問題だったが、うちの生徒は結構出来ていた。
④ 過度でなければ、飲酒も喫煙も結構だと主治医はいう。

問二三　傍線を引いた表現を正しく使っている文はどれか。

① 他人には無価値に見えても、長年使い続けてきた物には思い出もあり、愛着もある。自家薬籠中のものとなって、容易には捨てられない。
② このような岩の多い難所では慎重な走行を心掛けなければならない。転倒

すると、一敗地にまみれ、前進することもかなわなくなるからである。

③ 学問に王道なしとはよく言ったもので、学問に分野による価値の上下はない。その価値はその学問を修する人によるのである。

④ 通勤途中に店先のテレビで囲碁の対局を見て、時を忘れ、仕事に遅れるなど、病膏肓に入るとはまさにこのことだろう。

問二四　漢字を正しく使っているものはどれか。

① クレオパトラの鼻が曲っていたとすれば、世界の歴史はその為に一変していたかも知れないとは名高いパスカルの警句である。しかし恋人と云うものは滅多に実相を見るものではない。いや、我我の自己欺瞞は一たび恋愛に落ち入ったが最後、最も完全に行われるのである。

② アントニイもそう云う例に洩れず、クレオパトラの鼻が曲っていたとすれば、努めてそれを見まいとしたであろう。又見ずにはいられない場合もその短所を補うべき何か他の長所を探したであろう。何か他の長所と云えば、天下に我我の恋人位無数の長所を具えた女性は一人もいないのに相違ない。

③ アントニイもきっと我我同様、クレオパトラの眼とか口びるとかに、あり余る償いを見出したであろう。その上又例の「彼女の心」！実際我我の愛する女性は古往今来飽き飽きする程、素晴らしい心の持ち主である。

④ しかもあのクレオパトラは豪奢と神秘とに充ち満ちたエジプトの最後の女王ではないか？香の煙の立ち昇る中に、冠の珠玉でも光らせながら、蓮の花か何か持て遊んでいれば、多少の鼻の曲りなどは何人の眼にも触れなかったであろう。況やアントニイの眼をやである。

問二五　カタカナ語を正しく使っているものはどれか。

① わが社には新商品のモラトリアムは英語で行うべきだという役員がいる。

② ゆとり教育が導入されて、教育スキームの見直しがよく議論される。

③ 母語のグランドデザインが未熟であると知識の伝達は成功しない。

④ 某紙の調査によると公務員のアイデンティティが引き下げられるという。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④

から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。なお、原本の旧字体は新字体に、歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに改めた。

「独り灯の下に書を広げて、見ぬ世の人を友とするこそ、こよなう慰むわざなれ。書は文選の哀れなる巻巻、白氏文集、老子の語……」

これは誰も知る「　A　」の一節であるが、僕は読書について考えるたびに、いつもこの言葉を思いだす。

ここには書物が読者に与えてくれるB楽しみの極致が、判（は）っきりと語られている。そして読書という行為が、それに普通伴うC功利的な因子と離れて考えたとき、人生に対して持つ価値について、おそらく何人もこれ以上のことは云えないのである。

たとえば、ラスキンの「胡麻と百合」は近代の文学者が、人間の教養としての読書の必要と意義とを、真正面にあらゆる角度から究めた名著であり、その真摯な論調は、さまざまの有益な実際的注意と相俟（ま）って、今なお読書論の古典として価値を失わぬものであるが、ここで彼の説く根本思想は、右に引いた兼好の隻句を一歩もでていない。つまり彼はここで口を極めて書物によって「見ぬ世の人を友とする」歓びを説き、同時にその難しさを、種々の面から適切な実際的注意とともに、繰返して強調しているだけなのである。

兼好とラスキンというのは如何（いか）にも突飛な取合せである。しかしこの気質も環境もまるで違った東西の二文人が―相互の教養が少なくも表面上は何の繋りもないに拘（かかわ）らず―読書の本姿について全く同じ見解を把持していることは、D却（かえ）ってそこに或る動かし難い真理を暗示するのではなかろうか。

　E　彼等が一致して云うのは、書物は生き物だということである。そしてこの生き物である書籍は、人間の生きる世界のなかに、僕等の日常接する社会とは別物の、時間と空間の束縛を脱した、Fひとつの大きな社会を形造っているということである。そこで僕等はプラトンと話をすることもできれば、白楽天や、老子の「語」を聞くことも出来る。そして読書とは、この眼に見えぬが確かに存在する、また主として死者から成り立っているがおそらく現実の人間の生きる社会よりずっと人間的な　G　の社会に身を以って生きることなのである。物を読むという一見無駄な暇潰（つぶ）しに似た行為が、僕等の短い人生の貴重な時間を惜しみなく割くに値するのは、主としてHこのためなのである。

更に進んで云えば、或る人の持つ教養の深浅は、結局彼がこの［G］の世界の現実性をどの程度まで信じているかによって計られる。そこに生きる歓びをどこまで自分の生命の営みとして感じているかで定まるのである。

だから読書の方法とは―もしそういうものを考えるとすれば―まずこの世界にどんなに狭くてもいいから自分の道を切り拓くことに始まるべきであろう。無心に眺めれば紙と印刷インクの塊りにすぎぬ死物の書籍のなかに生きた人間の声を聞くことこそ読書の第一歩なのである。世の多くの人々は、この眼に見えぬ世界の存在をさえ信じない。しかし自分で一旦その片隅に足を踏み入れて見れば、その広大さと美しさは到底僕等の接触する実社会の比ではないのである。いわばⅠ時空の制約から自在に放たれたこの世界は、或る意味で僕等の現実に歩き廻れる地球より広く、またその美は僕等が生涯を費してもなお極め尽くせぬ豊かさを持つのである。そしてそこに生きる歓びが、僕等の心にとってこの世で得られる如何なる宝にも換え難いことは、たとえばラスキンを始めそれを実際に経験した人々が口を極めて保証するところである。

［J］こう云ったからと云って、書籍の世界が実在の人間の世界と離れた縁のない存在でないことは、改めて断るまでもないことであろう。さきにも一寸触れた通り、書籍の世界は、人間が長い年月の努力を重ねて築きあげた、現実の社会より一層人間的な社会なのである。言葉を換えて云えばより高度の正義の行われる、神の国に近い社会である。そこには貴族もいれば、賤民も住んでいる。善人もいれば悪党もいる。しかしそのなかで彼等の地位を厳しく決定するのは、常に純粋な人間的価値である。より良くより美しいものには必ず高い席が設けられる。そこで最も尊敬を払われるのは、いつも人間に最高の生きる道を教えた賢者であり、一番の同情を得るのは、誰より無垢な心を傷つけ破った者である。いわばこの世界は人間が獣の領域を離れて神に近づこうとする積年の希（ねが）いの結晶であると云ってよいのである。

だからこの世界の存在を知ることは、僕等にとって実生活を離れた夢の国に遊ぶことではなく、むしろそれによって初めて人間として完全に近づくのである。矛盾と苦痛に満ちた実生活に処して人間として高く生きることの意味を初めてそれによって本当に知るのである。だから真の意味での教養とは、実生活を離れた知識の羅列ではなく、むしろ各自がその生活に堪えて行く勇気の源泉なのである。

K人間が生活から学ぶという俗説はおそらく前世紀の実証主義が人心に植え

つけた最大の迷妄であろう。事実はむしろ逆である。僕等の実生活は、おそらく何人にとっても、僕等がそこから直接得た経験だけでは決して解けぬ疑惑の連結であろう。そして僕等はこれらの謎の意味を或いは先人に訊く、殊に書籍から学ぶ。すなわち僕等が生きることの意味を識（し）るのは主として書籍によってである。そこに蓄えられた先人の声を明確に、生き生きと聞き得れば聞き得るほど、僕等は自分の些々（ささ）やかな人生を正しく明瞭に理解するのである。もしそうでなければ、あらゆる思想は僕等にとって無意味な筈（はず）である。

そして古来人類の社会が、それぞれに宗教や風習を異にしながら、常に或る種の書籍を人間に生きる道を教える聖器として、すなわち最も高い意味の文明の守護者として、尊んで来た理由もおそらくＬここに存するのである。

この意味で聖典はすべての書籍が人間の社会で果たすべき役割を象徴するものであろう。

およそＭ書籍の名に値する書籍は必ずこの象徴の世界に参加する。そしてこの世界は実社会を離れた眼に見えぬ存在ではあるが、決して僕等の生活に無縁なものではない。

何故ならそれはいわば人類の生命の根幹から湧き出た清冽な泉であり、それに身を浸すことは僕等に現世の混濁に処していく上で、慰藉と勇気とを与えてくれるからである。

以上僕は書籍の世界の魅力と徳について多少せきこんで述べすぎたようである。

しかし僕は読書とは単なる娯楽や所謂（いわゆる）生活の潤いなどでなく、その本質において人間が人間として生きる上で必須な或る真面目な仕事であることを強調しておきたかったのである。そしてもしそういう憧れを真剣に持たなければ書籍に手を触れることなど最初から止める方がよいと思うのである。印刷機の発達が書籍の普及を容易にし、ために近代の文明が異常な進歩を遂げたとするのは現代の常識である。しかしその反面に書物が安価な商品として誰にも提供されるようになったということが、無意味な消閑の具に過ぎぬ書物の量を圧倒的に増大して、そのために書籍全体が受くべき正当な尊敬を払われなくなったのも、また反面の争いがたい事実である。おそらく現代ほど書物が普及した時代もなく、また読書が安値に考えられた時代もないのである。

しかし今日数多くの廉価な叢書で世界の古典が煙草銭ほどの代価で手に入ることは、決してそれらの内容が煙草をふかすように容易に誰にも理解されるよ

うになったことを意味しない。たとえば論語という書物の難しさはそれが二十銭で買える僕等にも、また昔それを丹念に筆写した人々にも同じことである。

こうした時代に多数の書籍を読破するなどということはおそらく誰にも容易にできることである。むしろ困難なのは、たとえ一冊でも、またはその中の数頁でも、優れた書物を本当に読みこなすことである。

［N］僕等が書籍を手にするに際して、まず必要なのは、そのなかに生きる「見ぬ世の人」に対する正当な［O］の情である。それなしに書物を開くことはすでに冒瀆なのである。そしてこの目に見えぬ世界の誇り高い住民達は、冒瀆者に対しては何事も語らないのが普通である。

（中村光夫「青春と知性」）

問一　空欄Ａに入る文学作品名はどれか。

① 枕草子
② 方丈記
③ 徒然草
④ 玉勝間

問二　傍線Ｂ「楽しみの極致」の内容として最も適当なものはどれか。

① 人生を豊かにする知識の獲得
② 未知の世界の人々との出会い
③ うまく世を渡る処世術の吸収
④ 善と悪とを識別する力の育成

問三　傍線Ｃ「功利的な因子」に該当しないものはどれか。

① 内面が豊かになる
② 知識を豊かにする
③ 新しい言葉を知る
④ 表現技術を習得する

問四　傍線Ｄ「却ってそこに或る動かしがたい真理を暗示するのではなかろうか。」の理由として最も適当なものはどれか。

① 両者とも各国の最も優れた教養人だから
② 真理は時間や空間を超えて存在するから
③ 社会の真理は明確には目視できないから
④ 関係の薄いもの同士に共通性があるから

問五　空欄Ｅに入る最も適当な語はどれか。

① さらに
② すると
③ しかし
④ すなわち

問六　傍線Ｆ「ひとつの大きな社会」として最も適当なものはどれか。

① 科学の発達した社会
② 経済的に豊かな社会
③ 人間性が豊かな社会
④ 自由に空想する社会

問七　空欄Ｇに入る最も適当な語はどれか。

① 精神
② 遊興
③ 旅行
④ 夢想

問八　傍線Ｈ「この」の示す内容として最も適当なものはどれか。

① 読書から得た知識は、人間社会を生きる術を与えてくれるから、
② 読書は、人間社会の現実よりもより人間的な社会であること
③ 読書は、人間社会の悪に立ち向かう勇気を与えてくれるから
④ 読書をとおして築いた人間関係は将来役に立つことがあるから

問九　傍線Ⅰ「時空の制約から自在に放たれたこの世界」がもつものとして最も適当なものはどれか。

① 広大さと美しさ
② 無限大の財宝
③ 限りない空想力
④ 豊かな経験

問一〇　空欄Ｊに入る最も適当な語はどれか。

① そこで
② なので
③ つまり
④ しかし

問一一　傍線Ｋ「人間が生活から学ぶという俗説はおそらく前世紀の実証主義が人心に植えつけた最大の迷妄であろう」とあるが、なぜか。その説明として最も適当なものはどれか。

① 人間は現実社会で学んだ有意義なことを活かして生きていくから
② 人間は現実に存在するものによってその人の人生が決定されるから
③ 人間は現実社会の経験だけでは人間らしく生きていけないから
④ 人間は現実社会を否定することによって人間らしく成長するから

問一二　傍線Ｌ「ここ」の示す内容として最も適当なものはどれか。

① 読書によって人間は生きる勇気が与えられる
② 読書をとおして人間の生きる意味を理解する

③ 読書によって厳しい人間の現実社会を認識する
④ 読書をとおして人間社会を生きる知識を得る

問一三　傍線M「書籍の名に値する書籍」と**反対の意味**で使われている表現として最も適当なものはどれか。

① 人間に生きる道を教える聖器
② 無意味な消閑の具に過ぎぬ書物
③ 数多くの廉価な叢書
④ 優れた書物

問一四　空欄Nに入る最も適当な語はどれか。

① だが
② あるいは
③ だから
④ ところで

問一五　空欄Oに入る最も適当な語はどれか。

① 感謝
② 軽蔑
③ 批判
④ 敬虔

三　右の文章を参考にして「読書のすばらしさ」について、あなたの読書の経験を踏まえて八〇〇字以内で述べなさい。

国語

平成26年度一般入試(前期日程)

問題1	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一一	一二	一三	一四	一五
	③	②	④	③	④	①	①	①	②	③	④	②	②	③	④
	一六	一七	一八	一九	二十	二一	二二	二三	二四	二五					
	③	②	①	①	③	④	②	④	③	①					
問題2	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一一	一二	一三	一四	
	①	④	②	④	①	③	③	④	②	①	③	②	②	③	
	一五	翻訳者なのである													
問題3	約六四〇字(約八割)以上文字が書いてある														
	日本語能力の必要が説かれている														
	筋の通った、理解しやすい書き方である														
	受験生の意見が述べられている														
	具体的な例が引かれている														

国語

平成26年度一般入試(後期日程)

問題1	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一一	一二	一三	一四	一五
	②	①	②	④	②	③	②	①	③	④	①	④	①	③	①
	一六												一七	一八	
	ア 一義		イ 蔑視		ウ 主権		エ 想念		オ 文化		カ 社会		③	④	
	一九	二十	二一												
	②	③	ア 高徳		イ 蕩尽		ウ 放蕩		エ 報酬		オ 夭折		カ 清浄		
	二二	二三	二四	二五											
	④	④	②	②											
問題2	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一一	一二	一三	一四	一五
	③	②	①	④	④	③	①	②	①	④	③	②	②	③	④
問題3	白紙答案でなく、文章が記述されている														
	問題の主旨を正しく理解している														
	具体性のある表現である														
	解答者の読書に対する積極的な姿勢が感じられる														